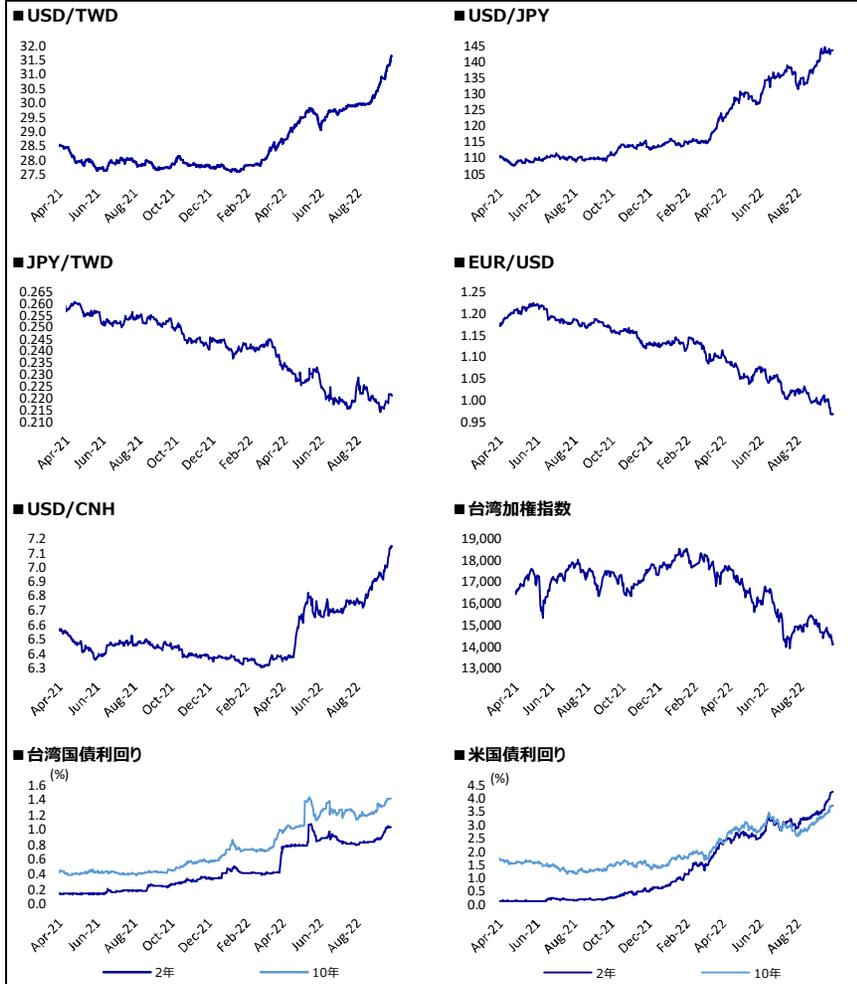


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初9/19は31.290でオープン後、台湾株が下落する中、台湾ドル売りが優勢となるが、31.4を前に上値を押さえる動きがあり、レンジで推移。9/20は外国人投資家の海外への送金や輸入企業がドルを買い進める動きから31.4台に乗せたものの、上値を押さえる動きが強く、31.3台で推移。9/21もドル買いが優勢で、加えてウクライナ情勢への警戒感やFOMCを前に米金利が上昇したこともあり31.4台で推移。9/22は前日のFOMCの結果を受けてドルが全面高となる中、外国人投資家だけでなく個人投資家によるドル買いから一気に31.5を抜けて31.6台で推移。9/23もドル全面高となる中、31.7台に乗せ、一時31.713をつけたが、輸出企業のドル売りも入り31.6台に戻され、最終的に先週比1.2%ドル高台湾ドル安の31.665で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は468.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は乱高下。週初9/19は143.00でオープン後、東京、ロンドン休場の中、週内にFOMCを控えており、米金利上昇やポジション調整から143円台半ばまで上昇。9/20はスウェーデン中銀が予想外に1.00%の利上げを決定したことや米8月住宅着工件数が予想を上回ったことから米金利の上昇が継続すると、144円近くまで上昇した。9/21は前日の流れから144円台前半で推移するが、ウクライナ情勢の報道を受けリスク回避の円買いから一時143円台前半まで下落したも、すぐに144円台に戻した。FOMCでは予想通り0.75%の利上げを決定したが、ドットチャートが前回より上方修正されたことがタカ派に受け止められ、米金利は上昇し、ドル円も144円台後半まで上昇。その後のパウエルFRB議長の見解では強弱混合の内容に144円を挟んでもみ合う展開となった。9/22は日銀が金融政策維持を決定するとドル円は145円台に乗せ、その後の黒田日銀総裁が会見で緩和を当分維持すると発言したことから一時145.90まで上昇し、24年ぶりの円安水準をつけた。しかし、日銀が円買い為替介入実施を発表すると円が大きく買い戻され、140.31まで急落。一巡後は143円台に上昇後に140円台に下落と乱高下となったが、米金利の上昇につられて142円台まで上昇。9/23は東京休場で閑散とする中、レンジで推移。その後の米9月製造業・サービス業PMIが発表されると予想を上回ったことからドル円は上昇で反応し、最終的に先週比0.3%ドル高円安の143.39で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.650-32.100
引き続き、ドル全面高となる中、台湾ドルが売られやすい環境は続くであろう。ただし、今週は四半期末の月末であり、ドル売りを控えてきた輸出企業の動向には注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：140.00-147.00
先週はFOMCとBOJで日米の金融政策の差がはっきりしたが、為替介入により円安が抑えられた。しかし、単独での自国通貨買い介入であり、効果の持続性には懐疑的な見方も多く、投機筋が円売りを仕掛ける動きに注意したい。

今週の予定

9/26 (MON)	
9/27 (TUE)	米8月耐久財受注、米9月消費者信頼感指数、米8月新築住宅販売件数
9/28 (WED)	
9/29 (THU)	米Q2GDP確報
9/30 (FRI)	米8月個人所得/消費、米8月PCEコアデフレーター

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。